



株式会社

モリタ

環境・SDGs 社会報告書 2024年度版

～持続可能な社会の実現をめざして～

2025年3月

表紙	頁
目次	1
トップメッセージ	3

環境報告

第1章	環境・SDGs方針	4
第2章	私たちが管理すべき重要な環境課題 ～著しい環境側面の情報公開～	5
第3章	環境目標と実績	8
第4章	主要な環境活動	9
1	地球環境保全－低炭素社会に向けた取り組み	
2	循環型社会をめざして－省資源と廃棄物3Rの取り組み	
3	環境商品の調査・開拓と販売－F A 関連産業商社としての取り組み	
4	社会貢献活動－ステークホルダーとの協働	
5	行政と協働した地域貢献活動の深化	
第5章	環境関連法規 ～コンプライアンスの状況～	12
1	環境関連法規への対応	
2	環境監査	
第6章	環境改善活動の評価と社員教育	13
1	社員に対する環境教育	
2	環境改善活動の評価	
第7章	私たちの環境組織と役割	14

社会報告

第8章	企業の社会的責任	15
第9章	会社概要	16

編集方針

1. 方針

今回発行する「環境・SDGs 社会報告書 2024 年度版」は、Web という媒体を使った 14 冊目の社外公開版報告書となります。企業において社会的責任を全うすること、「自然環境および社会の持続可能性を高め、自然環境と社会との共生を図ること」は企業の責務であると認識し、当社の現状を報告しました。

2. 対象組織

株式会社 モリタ 全社※

※当社の環境マネジメントシステムは第三者認証を得ておりますが、ISO14001:2015 の適用範囲となっていない太田駐在所と特機エンジニアリング部は、報告から除外しています

3. 対象期間

■ 2024 年度（2023 年 10 月～2024 年 9 月までの 1 年間）

環境理念

株式会社モリタは、経営理念のもとFA関連産業商社として「環境問題への取り組みは企業の社会的使命である」と位置づけ、「地球を大切に！」の思いを込めて、モノづくりと自然環境保護の調和に努めます。

トップメッセージ

1. 環境に配慮された商品を提供することで「自然環境と企業活動の調和」を目指します。
2. 環境保全にかかわる社会貢献活動に積極的に参加し「自然環境と地域社会との共存」に努めます。
3. CO2削減に精力的に取り組むことで、「緑豊かな地球を取り戻す」ことに尽力します。



弊社は、経済的側面のみならず、環境的側面と社会的側面を配慮に入れた持続可能な社会の実現に貢献できる企業を目指して参りました。特に、環境的側面としての環境問題への取り組みは「企業の社会的使命」と位置づけ、商社としていち早く環境マネジメントシステムを構築し、地球環境保全につとめております。

これまで2010年度からの3回は「環境報告書」として環境方針に掲げた5つのコミットメントに対する説明責任を果たして参りましたが、2013年度の報告書より、事業者として求められる社会的責任の取り組みも併せてご報告するべく「環境・社会報告書」といたしました。また、2021年8月には、SDGsの取組について宣言書を作成し、その中で、モノづくりと自然環境の調和と題し、継続的に実施していくことといたしました。

この「環境・SDGs社会報告書2024年度版」をご一読いただき、私たちの活動についてのご理解、ご意見・ご鞭撻を賜れば幸いと存じます。

株式会社モリタは、今後も事業の特性を活かした産業界への貢献と、行政や地域社会など様々なステークホルダーの皆様との協働により、「社会に存続を認められる会社」として全社員一丸となって邁進して参ります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

取締役社長 森田 乾嗣
Kenji Morita

経営理念

1. 私たちは

思いと行動の基準を産業界の発展と利益と、そこに働く人びとの“幸”を第一とします。

2. 私たちは

どのようなユーザーニーズにでも、対応できる体制を確立します。

3. 私たちは

どんな経済環境にでも、対応できるシステムを確立します。

4. 私たちの会社は

常に明るく、生きがいがあり、自己の魂も向上し、広く社会に奉仕できる会社です。

5. 私たちの心構えは

革新の気概あふれどんな場合でも、自己の良心の叫びに忠実に行動し、互いに励まし助け合い、何としてもやりとげることです。

第1章 環境・SDGs方針

～企業の社会的使命としての地球環境保全に対する約束～

【環境・SDGs方針】

株式会社モリタは、F A 関連産業商社として地球環境保全の重要性を認識し、環境に対する継続的改善と汚染の予防に、全社員をあげて積極的に取り組むため、以下の方針に従い環境・SDGs マネジメントシステムを実施することを約束します。

1. 環境関連の法律、規制、条例を順守するとともに、当社の環境・SDGs マネジメントシステムによる手順を整備し、実施と継続的改善に努めます。
2. お客様の課題解決を考慮した、地球にやさしい環境商品の調査、開拓を行い販売していきます。また、商社としての仕入から納品まで、行える範囲内での省資源を推進し、環境負荷の低減と環境汚染の予防に努めます。
3. 環境保全向上のため、行政機関、市民団体、お客様等の要求を当社が同意する範囲で取り入れ、順守します。
4. 環境・SDGs 目的・目標を設定し、これを定期的に見直し、必要に応じて改訂を行います。
5. 美化・緑化などの環境配慮活動に積極的に取り組むことで、地域社会に貢献します。
6. 国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、SDGs の達成に向けた取り組みをおこなうことを宣言します。

（当社の環境への取り組みを社会に広く公開します。）

2022年12月09日
取締役社長 森田乾嗣

環境問題は一つの地球市民として、消費者・事業者・行政が一体となって取り組む活動であり、互いの立場を知り、情報を共有し、共に課題解決のための行動を起こすことが必要です。

私たちは「環境」をキーワードとして、「社会に存続を許される」会社になりたいと願っています。

私たちの社長、森田乾嗣は地球環境問題に積極的に取り組むべく6つの約束を社会に宣言しました。

約束をどれだけ実現することが出来たのか、その説明責任を担いたく、当社の環境への取り組みを社会に広く公開していきます。

本報告書もその一つとなります。

第2章 私たちが管理すべき重要な環境課題 ～著しい環境側面の情報公開～

環境に重要な影響を与えている環境課題（著しい環境側面）については6項目を特定し、改善出来るものは目標を定めて改善し、改善出来ないものは手順を定め、環境がこれ以上悪くならないような管理を行っています。

No.	プロセスサイト	モリタが管理できる環境課題（環境側面）
1	全社	産業廃棄物排出
2	営業	潤滑油・塗料・自動車燃料・オイル・シンナー取扱時の漏洩
3	駐車場	車両の油漏れ
4	営業	環境商品販売
No.	プロセスサイト	モリタが影響を及ぼすことができる環境課題（環境側面）
1	工事立会	廃棄物排出(委託業者)
2	工事立会	油類流出(委託業者)
No.	プロセスサイト	啓蒙活動（環境側面）
1	全社	電気使用
2	全社	自動車燃料使用

2024年9月現在

■ モリタが管理出来る環境課題

テーマ（環境目的と環境目標）を定めて改善に取り組んでいる重要な環境課題（著しい環境側面）は、F A 関連産業商社たる弊社においては有益な活動となる「環境商品販売」です。
これは目標達成のための実施計画を定め、環境・SDGs方針を実現するための活動となっています。

■ モリタが影響を及ぼすことが出来る環境課題

環境・SDGs方針からはずれないような日常管理を行い、環境がこれ以上悪くならないよう維持管理をしています。

■ 啓蒙活動として取り組んでいるもの

社内展開にて、定常となった項目は、監視測定項目からは除外していますが、啓蒙活動として継続しています。

■廃棄物の排出 ～管理と抑制の取り組み状況～

循環型社会の形成が求められている昨今、事業活動において発生する廃棄物は3R（発生抑制・再使用・再生使用）による減量と発生した場合は区分に応じた分別と処理をきちんと行う必要があります。

サイトより発生する廃棄物の大半は「事業系産業廃棄物」として処理することが行政の通達により求められています。また、当社は得意先構内において下請会社等が行う工事の元請責任を負っております。得意先構内作業の過程で発生する廃棄物の適正管理はお客様が求めているニーズであり、モリタにとっては順守義務となります。

発生の抑制に努め、発生した不要物は廃棄物としない3Rを推進していきます。

■電気の使用 ～モリタの省エネルギーの現状と今後～

産業界においては省エネルギーの重要性が認識され、「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律」（省エネ法）では、事業活動におけるエネルギー量の削減による気候変動の緩和が求められております。私たちは「省エネルギー実施手順」を制定し、日常活動として空調機器・照明機器・事務用機器を省エネルギーの対象と定め、「省エネルギー実施手順」に従った管理が出来ているか、2013年5月より省エネ状況のチェック（電気使用の監視測定）を開始しました。社内展開にて、定常となったため、2021年より全社啓蒙活動として継続しています。サイトごとの省エネルギーパフォーマンスは、下記表の通りです。

【2024年度における電気使用量の省エネルギーパフォーマンス】

サイト		2023年度(参考)	2024年度	削減電力量C
		基準A (kwh)	実績B (kwh)	A-B (kwh)
I	本社	18,764	15,167	3,597
II	名古屋	2,804	12,646	▲ 9,842
III	豊田	26,595	18,865	7,730
IV	小牧	10,517	8,626	1,891
V	刈谷	38,162	32,464	5,698
VI	北九州	3,539	3,661	▲ 122
VII	仙台	6,945	6,468	477
**	全社	107,326	97,897	9,429

* 2023年度の名古屋は7～9月のみの測定

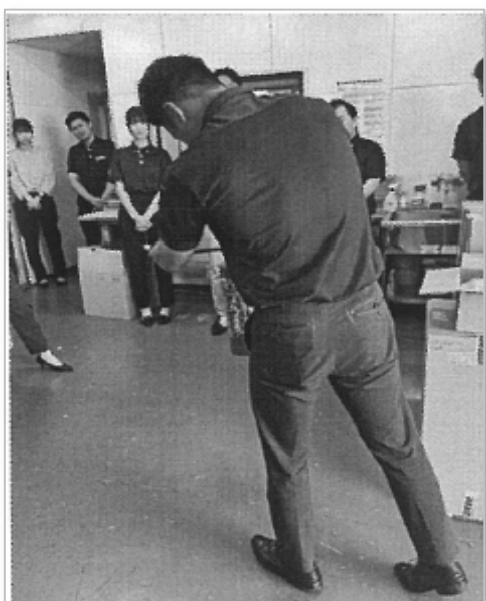
■緊急事態が発生するかもしれない時の組織としての対応

緊急事態が発生した時は手順に従った迅速な対応が重要です。私たちの会社は「ものづくり」を行う製造業ではないので緊急事態の発生リスクは小さいのですが、「緊急時対応マニュアル」を作成して、お客様構内での環境事故の発生や近隣住民の皆様には有害な環境影響（環境の変化）を及ぼさないような予防管理に努めています。また、マニュアルに定めた手順が「もしもの時」にちゃんと機能するか、定期的にテストを行っております。2024年度に全サイトで行った「テスト」は良好であり、手順が有効であることを確認しました。予防管理は徹底させる必要があります。私たちは企業の社会的責任の一つとして、環境リスクの予防と緩和に継続的に取り組んで参ります。

2024年度も中途や新卒を問わず新入社員が増加しているため、3月に「テスト」の実施、9月にはサイトごとに緊急時の「避難訓練」を実施しました。

2024年9月 サイトごとで「緊急時避難訓練」の実施

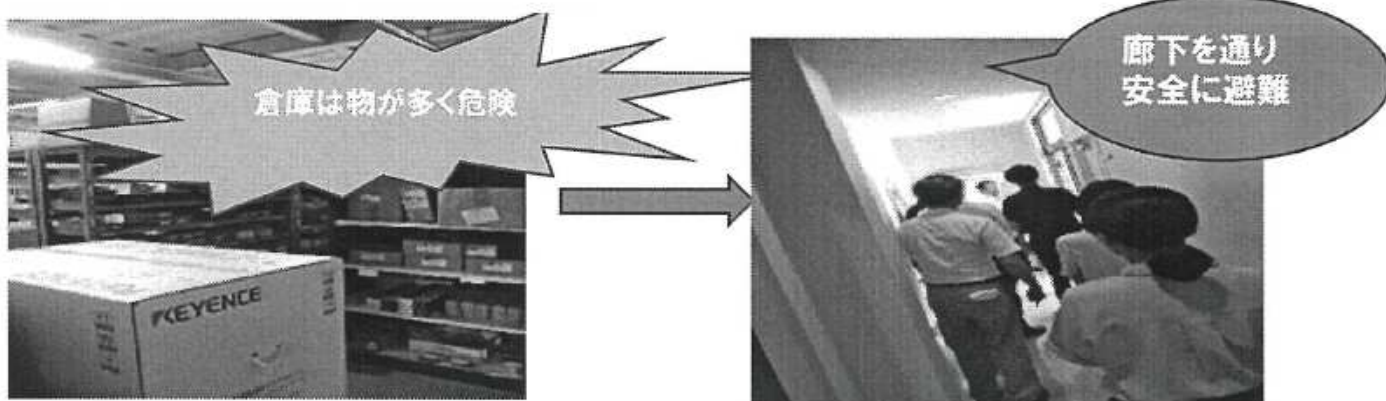
消火器の使い方の確認



避難場所の確認



所内避難経路の確認



第3章 環境目標と実績

2024年度における環境目標達成状況は以下のとおりです。

テーマと実績

テーマ（環境目的）	2024年度環境目標	実績（達成状況）
地球にやさしい環境商品の販売拡大	目標額を定め100%達成する	132.7%達成
社会貢献活動の推進	地域の美化活動として、営業所界隈の清掃や地域の活動に参加	100%達成
	エコキャップ回収活動を実施する	全社で実施し、回収業者へ持ち込み完了

環境商品実績の抜粋（メーカー：あいうえお順）

メーカー	商 品
アコー	ウェットスクラバー
アトレス	アクアビームス
アメロイド	油水分離機、遠心分離機、排水処理装置
イーズ	スポットバズーカー
川重テクノロジー	ミストリーナ（オイルミストコレクター）
コガネイ	I B - C y c l o n e
中部クリーン	クーラント自動希釈装置
ベッセル	静電気除電ガン

第4章 主要な環境活動

2024年度における弊社の環境活動について、環境・SDGs方針の5つのキーワード、「地球環境保全」・「汚染の予防」・「省資源」・「環境商品の調査・開拓・販売」・「地域社会貢献」の取り組みについて報告します。

1. 地球環境保全（気候変動から気候危機へ）－脱炭素化社会実現に向けた取り組み

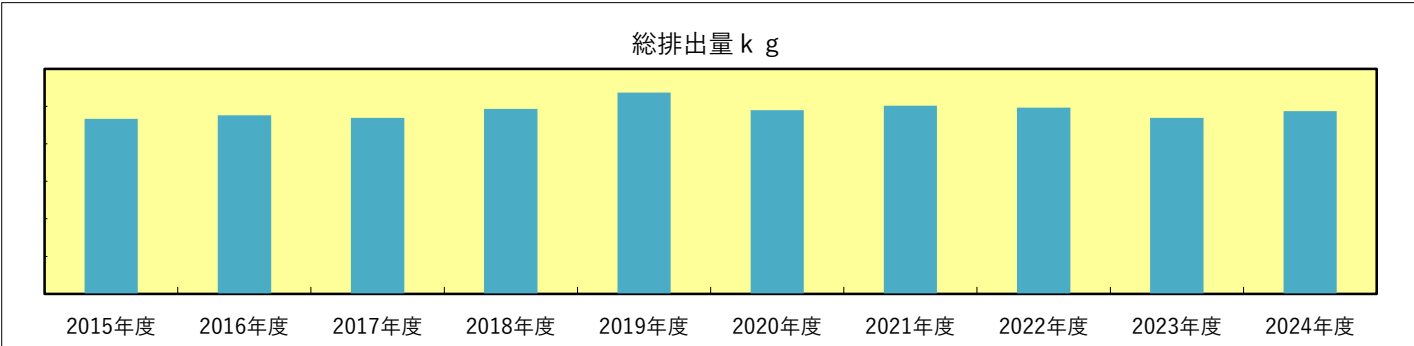
事業活動において温室効果(二酸化炭素)を増加させている要因として、「電気・ガス・水道・ガソリン・軽油・紙使用・廃棄物」の7項目を特定し、日常管理を行っております。2014年度から2024年度まで11年間の二酸化炭素排出量の推移は下記の通りです。

【環境側面投入量と二酸化炭素排出量の推移】

	CO2 排出 係数	CO2 排出	環境側面投入量／CO2（二酸化炭素）排出量（排出量単位：kg）									
			2015年度 第63期	2016年度 第64期	2017年度 第65期	2018年度 第66期	2019年度 第67期	2020年度 第68期	2021年度 第69期	2022年度 第70期	2023年度 第71期	2024年度 第72期
電気 kwh	0.47	投入量 排出量	141,143 66,337	142,379 66,918	135,973 63,907	130,372 61,275	121,935 57,309	125,233 58,860	126,408 59,412	129,648 60,935	103,104 48,459	97,897 46,012
ガス m³	2.36	投入量 排出量	481 1,135	106 250	119 281	126 297	144 340	118 278	113 267	120 283	81 191	66 156
水道 m³	0.54	投入量 排出量	572 309	719 388	735 397	706 381	775 419	875 473	656 354	816 441	526 284	543 293
ガソリン L	2.30	投入量 排出量	71,753 165,032	74,131 170,501	73,817 169,779	80,213 184,490	91,284 209,953	80,574 185,320	83,008 190,918	81,060 186,438	80,775 185,783	85,634 196,958
紙使用 枚数		投入量 排出量	231,400 排出量	260,000 排出量	270,400 排出量	296,400 排出量	348,400 排出量	280,800 排出量	234,000 排出量	239,200 排出量	286,000 排出量	249,600 排出量
合計		投入量 排出量	232,813 232,813	238,058 238,058	234,364 234,364	246,443 246,443	268,021 268,021	244,931 244,931	250,951 250,951	248,096 248,096	234,717 234,717	243,419 243,419

【二酸化炭素排出量の推移】

	2015年度 第63期	2016年度 第64期	2017年度 第65期	2018年度 第66期	2019年度 第67期	2020年度 第68期	2021年度 第69期	2022年度 第70期	2023年度 第71期	2024年度 第72期
総排出量(単位kg)	233,195	238,146	234,416	246,443	268,021	244,931	250,951	248,096	234,718	243,419



二酸化炭素排出量の推移10年間をグラフ化した指標です。
2019年度に増加しましたが、それ以降は少しずつ減少傾向にあります。

2. 循環型社会をめざして－省資源と廃棄物3Rの取り組み

■廃棄物3Rの状況

私たちの会社では、事業活動によって発生する紙ごみは処分するのではなく、リサイクル（再生資源）化することに取り組んでいます。

[R1 リデュース]

カタログやパンフレットは必要部数のみを入手し、発生抑制に努めています。

[R2 リユース]

緩衝材やダンボールは発送の際に再使用したり、仕入先へ提供しています。

[R3 リサイクル]

再生可能なダンボールやカタログ、雑古紙などは全社で発生しますので、定期的に回収し、リサイクルをしています。



右：ダンボール等の再生可能廃棄物

3. 環境商品の調査・開拓と販売－F A 関連産業商社としての取り組み

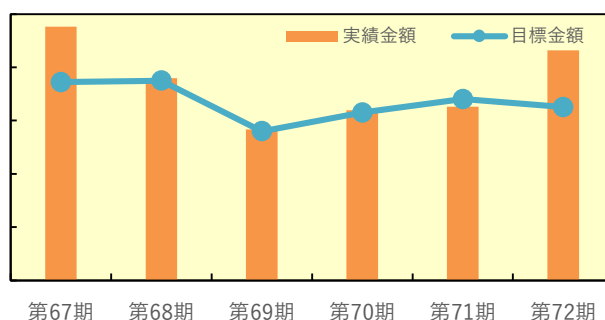
私たちは経営理念に定める「産業界の発展と利益と、そこに働く人々の”幸”（しあわせ）を」実現するために、また、環境・SDGs方針に従い「お客様の課題解決を考慮した、地球にやさしい環境商品の調査、開拓を行い販売」することを実現するために、有益な環境課題＝環境との関わり（環境側面）として「環境商品の販売」を決定しました。

■環境商品の販売

F A 関連産業商社としての本分を自覚し、全営業所統一の取り組みとサイトごとに顧客のニーズに応える環境商品の販売を環境目標に定め、拡販活動を展開しております。

右図は過去6年間の販売実績の推移です。この活動は本来業務である営業活動と統合させた実績です。

【環境商品販売実績の6年推移】



4. 社会貢献活動－ステークホルダーとの協働

■エコキャップ活動～発展途上国の子どもたちにワクチンを！～

豊田営業所では、2010年度より社内で発生するペットボトルのキャップを回収し、回収業者を通じて、世界の子どもたちにワクチンを贈る活動を始めました。

活動8年目の2017年度からは全社で活動を開始し、毎年度、エコキャップ活動に協力しています。

5. 行政と協働した地域貢献活動の深化

本業を通じて地域社会に貢献し、2013年度10月から行政と協働した「地域社会貢献」を行っております。

■ 2024年度に取り組んだ社会貢献活動

参加した部署	活動内容	協働した団体	実施状況
豊田営業所	愛・道路パートナーシップ事業	愛知県・豊田市	年間4回実施
小牧営業所	江南市アダプトプログラム	江南市	年間6回実施
刈谷営業所	刈谷市530(ごみゼロ)運動実践活動	刈谷市	10月、5月に実施
北九州営業所	「クリーン北九州」まち美化キャンペーン	北九州市	7月に実施
本社	本社ビル界隈の自主清掃	—	年間6回実施
名古屋営業所	営業所界隈の自主清掃	—	年間4回実施
仙台営業所	仙台営業所界隈の自主清掃	—	年間4回実施



豊田営業所



刈谷営業所



小牧営業所

第5章 環境関連法規 ～コンプライアンスの状況～

1. 環境関連法規への対応

私たちの会社は毎年2回、守るべき環境法規制および守ると決めたその他の要求事項の見直しを行い、サイトの所属長と環境管理責任者がきちっと守っているかどうかの評価を行っています。

2. 環境監査

環境マネジメントシステムの規格適合性と環境パフォーマンスを点検するために、内部監査および外部監査機関により定期的に環境監査を実施しています。

【内部監査と外部審査の結果】

内部監査	不適合	観察	気づき	外部審査	S/A	B	C
2022年	0	2	9	2022年	0	0	5
2023年	0	2	5	2023年	0	0	17
2024年	0	1	4	2024年	0	0	6

第6章 環境改善活動の評価と社員教育

1. 社員に対する環境教育

私たちの会社では社員一人一人が環境に対する意識を高め、自発的に環境への配慮を実践出来るようにするために環境教育を実施しております。

【2024年度主な環境教育の実績】

名 称	教育担当者	実績	対象者
法令教育	外部専門家	年2回	役員・本部長・次長・グループマネージャー
環境教育	外部専門家	年2回	サイトISO14001推進委員
環境教育	推進委員	年4回	一般社員
新入社員教育	ISO事務局 推進委員	入社時	新入社員
環境商品販売教育	環境管理責任者	年1回	サイトISO14001推進委員
緊急時避難訓練	推進委員	年1回	一般社員

2. 環境改善活動の評価

ISO14001：2015規格に従って環境改善の仕組みを作り、改善活動を行っております。
環境パフォーマンス（成果）が継続的に向上しているかどうかについて「分析と評価」を、3月と9月、年2回実施します。

分析と評価を実施した結果は、社内のコミュニケーションツールにて全社員で認識を共有しています。

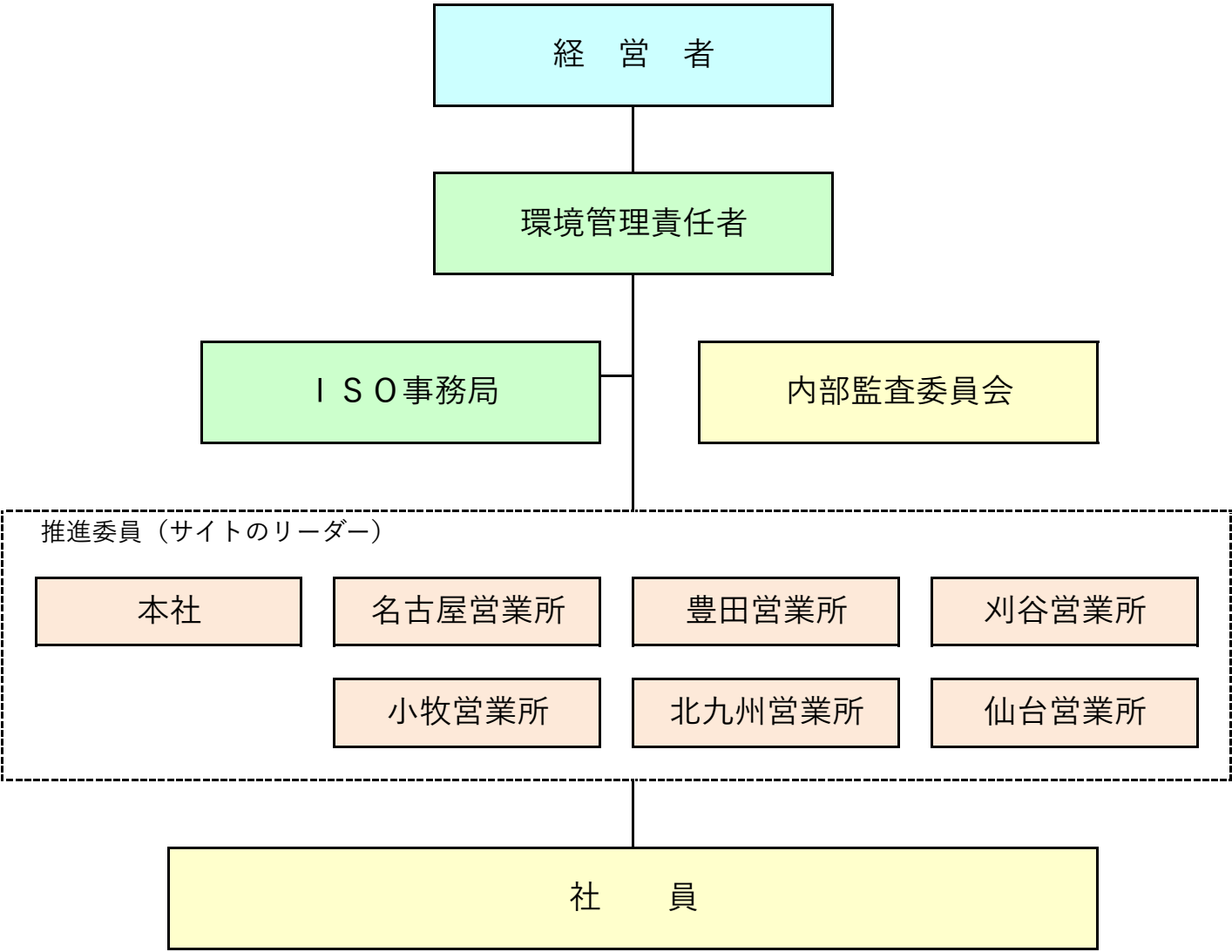
【分析と評価を行っている管理項目】

1. 法律の順守（順守義務）
2. その他の要求事項の順守（順守義務）
3. 油類流出の防止（汚染の予防）
4. 廃棄物排出の管理（汚染の予防）
5. 第1種特定製品フロン類漏洩と回収破壊の管理（汚染の予防）
6. 環境目的と環境目標の達成状況（統一活動）

第7章 私たちの環境組織と役割

次のような組織で環境配慮活動に取り組みました。

2024年度の役割分担図



ISO14001:2015適用範囲
特機エンジニアリング部及び太田駐在事務所は除く

第8章 企業の社会的責任

■『SDGs』の取組について

2021年8月『SDGs』の取組について宣言書を作成しました。

モノづくりと自然環境の調和と題し、「ISO14001」に基づいた環境マネジメントシステムを持続的に実施・改善すると共に、3R活動、省資源・省エネ活動を通じて、限りある地球環境の保全に貢献します。

具体的な取り組み

- ・ISO14001認証取得の維持継続
- ・工場環境を改善する商品の供給

The image shows a template for an SDGs Declaration document. At the top, a large rainbow arches over the title "株式会社 モリタ SDGs宣言". Below the title, a paragraph states the company's commitment to the Sustainable Development Goals (SDGs) and its goal to contribute to a sustainable future. The date "2021年8月1日" and the name of the representative director, "株式会社 モリタ 取締役社長 森田乾嗣", are provided. The document is divided into four main sections, each with a title, a brief description, and specific actions. The first section, "ワンストップサービスを提供", focuses on providing comprehensive services to customers. The second, "モノづくりと自然環境の調和", focuses on harmonizing manufacturing with the natural environment. The third, "安定と充実、不安なき未来を", focuses on creating a stable and fulfilling future for all. The fourth, "多面的なアライアンスの構築", focuses on building a multi-faceted alliance. Each section includes a list of specific actions. The document is decorated with various SDG icons and a logo for Morita Co., Ltd. at the bottom.

株式会社 モリタ SDGs宣言

弊社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、SDGsの達成に向けた取組みをおこなうことを宣言します。

2021年8月1日
株式会社 モリタ 取締役社長 森田乾嗣

SDGsの達成に向けた取組み

ワンストップサービスを提供
「傾聴力」・「提案力」・「商品力」を携えて、お客様に最適なコーディネートを実現化します。商品提供からアフターサービスまで、オールインワンのサポート体制を通して、持続可能な生産性の向上による経済成長に貢献します。

■具体的な取組み

- ・最適なコーディネートの実現
- ・自足的なサポート体制の構築

モノづくりと自然環境の調和
「ISO14001」に基づいた環境マネジメントシステムを持続的に実施・改善すると共に、3R活動、省資源・省エネ活動を通じて、限りある地球環境の保全に貢献します。

■具体的な取り組み

- ・ISO14001認証取得の維持継続
- ・工場環境を改善する商品の供給

安定と充実、不安なき未来を
人材の多様性と個性を尊重し、安定感と充実感のある職場環境を構築し、満足度の維持・向上に努めると共に、弊社で働く全ての人々が、健康で幸福な未来を実現できるよう、様々な働き方を実現します。

■具体的な取組み

- ・福利厚生の更なる充実
- ・働き方改革の実施

多面的なアライアンスの構築
様々なメーカーやグループ会社と、多面的なアライアンスを構築し、最適なコーディネート提案を実現すると共に、市場ニーズの吸収とフィードバックを通じて、次世代を見据えた新たな技術革新を提供します。

■具体的な取組み

- ・メーカーとの最新技術情報の共有
- ・グループ会社と連携したシステム提案

株式会社 モリタ

第9章 会社概要

会社名	株式会社 モリタ
英語名	M o r i t a C o r p o r a t i o n
本店所在地 (登記)	〒460-0013 名古屋市中区上前津一丁目2-29
事業内容	精密測定機器 工作機械・専用機 省人・省力化設備 自動計装システム 工場環境改善工事 等の販売・卸
代表者	取締役社長 森田乾嗣
設立	1952年（昭和27年）12月17日
資本金	8,000万円
社員数	105名
関連会社 (国内)	東京技販 株式会社 株式会社 二葉 モリタサービス 株式会社
関連会社 (海外)	HONG KONG MORITA INTERNATIONAL TRADING CO.,LTD（香港） 上海森田皆喜精密机械有限公司（中国・上海市） 天津森田国際貿易有限公司（中国・天津市） PT. MORITA PRECISION INDONESIA（インドネシア・ブカシ） MORITA GIHAN（THAILAND）CO., LTD.（タイ・バンコク） G PART AUTOMATION CO., LTD.（タイ・ノンタブリ）
取引銀行	三井住友銀行 上前津支店 三菱UFJ銀行 上前津支店 名古屋銀行 上前津支店